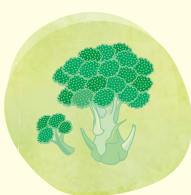


春ブロッコリー

やさいの里営農センター 営農指導担当 本橋 準一



農業

テクニカルダイアリー



トウモロコシ

やさいの里営農センター 営農指導員 宇井 文英



写真② 黒すす病(葉の病斑)

病原菌はカビの一種で、前年の被害残渣や種子で越冬伝染します。気温25℃前後のときに降雨や強風により多発します。被

黒すす病

今年産は好天が比較的長く続いたことにより、降雪や降霜の被害、また低温による被害も少ない年となりました。そのため生育はおおむね順調に推移し、収量は昨年並みとなりました。しかし、気温の上昇に伴い、終盤にかけて黒すす病や軟腐病などの病気が多く発症しました。

令和5年産の振り返り



写真③ 黒すす病(初期病斑)

出蕾前に葉に病斑が発生すると、花蕾へ病斑が進展する可能性が高いことから、葉の発病を抑えるよう、殺菌剤での予防を心掛けましょう。

密生します(写真③)。

害が出た圃場での連作は避け、アブラナ科以外の品目で輪作を行うようにしてください。また多湿条件下で病気が多発するため、明渠の設置やトンネル換気を励行し、湿度を下げましょう。

発病した葉には褐色小斑点および円形・楕円形の輪紋病斑が形成されます。やがて病斑中央部に穴が開き、病斑周辺は黄色になります(写真②)。また花蕾は黒色の小斑点を生じた後、病斑が拡大して黒褐色に腐敗します。病斑部には黒色のカビを密生します(写真③)。



写真⑤ 黒腐病(株全体)



写真④ 黒腐病(葉の拡大)

黒すす病と似た病害の「黒腐病」は低温、多湿により発生する細菌病です。葉の周辺から病斑が現れ、病状が進むとV字または不整形を描くように葉全体に広がっていきます(写真④、⑤)。発生初期の場合は株を抜き取り、畑の外に出すか薬剤で防除を行ってください。

黒腐病

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決！栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武郡市
営農なんでも相談室
(本所 営農部内)
☎0120-972-860

表② ブロッコリーに登録のある殺菌剤

薬剤名	適用病害		希釈倍率	使用時期	使用回数	特性			他の適用病害
	黒すす病	黒腐病				予防	治療	浸透移行	
アミスター20フロアブル	●		2000倍	収穫3日前まで	3回以内	○	○	○	べと病 菌核病
アフェットフロアブル	●		2000倍	収穫前日まで	3回以内	○	△	△	菌核病
パレード20フロアブル	●		2000倍	収穫前日まで	3回以内	○	△	△	菌核病
バリダシン液剤5		●	800倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	○	—
カスミンボルドー		●	1000倍	収穫7日前まで	4回以内	○	○	○	—

元肥は土壌診断結果に基づき、生育後半まで肥料切れさせない施肥設計をします。肥料切れは穂重に影響しやすく、生理障害の先端不稔や充実(着粒)不良の発生リスクも高くなるため注意しましょう。堆肥や石灰類などの改良資材は、播種の1カ月前に施用します。

播種

早めにマルチを展開し、地温・土壌水分を保持しましょう。播種は地温13℃以上が確保され、播種後3日から5日間好天が続くと予想されたときがベストタイミングです。日照時間が少なく、発芽までの日数が長くなると腐敗の原因になります。播種穴は深さ1センチ(人指し指の第一関節)を基準として、水分状況で調整します。多湿時はやや浅めに、乾燥時はやや深めに播種します。土を軽く握って崩れない程度が最適です。

畑の準備

主茎の最上部の房を残し、その下の房は早めに除去します。除房の時期は絹糸抽出初期(ベビーコーン)が適期です。

除房(早生品種)

早生品種は草丈が低く葉数も少ないので、株元から出る分げつ茎を切り取らずに残しておきます。葉数を多くし、そこでつくられた光合成産物を利用します。根量を多くして倒伏を防ぐとともに、雄花の充実をよくして受粉を助けます。ただし、雌穂が極端に大きい場合は除去します。

無徐けつ

播種後40日を経過すると幼穂が形成され、この時期の肥効が品質収量に大きく影響します。肥料切れを起こさないよう、播種1カ月後に即効性の肥料をチッソ成分で3〜5%を目安に追肥してください。

中間管理(追肥)

紋枯病は降雨の後の高温、すす紋病は低温時の降雨条件下で発病のリスクが高まります。また、台風や強風の倒伏被害により病原菌の侵入が助長されます。倒伏株は、無理に起こさず自然回復を待つとともに、降雨後の薬剤散布で防除を行いましょう(表①参照)。

●すす紋病
前年の被害葉で伝染源が越冬するため、発病のあった圃場ではできるだけ付け付けを控えることをお薦めします。

紋枯病

●アワノメイガ(写真①)
葉の裏に産卵し葉を削るように食べるため、株を見ただけでは判断がしにくいのが特徴です。葉の付け根から内部に侵入し雌穂の内部まで食害します。収穫しても外観からは分かりづらく収穫物の品質を大きく下げる要

病害虫防除

表① 未成熟トウモロコシに登録のある殺虫・殺菌剤

薬剤名	適用病害虫	希釈倍率	使用時期	使用回数
チルト乳剤25	すす紋病	1000倍	収穫7日前まで	2回以内
トリフミン水和剤	すす紋病	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内
リゾレックス水和剤	紋枯病	1500倍	収穫14日前まで	2回以内
スミチオン乳剤	アワノメイガ	1000倍	収穫7日前まで	4回以内
プレバゾンフロアブル5	アワノメイガ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
アフーム乳剤	オオタバコガ	1000～2000倍	収穫3日前まで	2回以内
カスケード乳剤	アワノメイガ、オオタバコガ	2000～4000倍	収穫7日前まで	2回以内
アディオン乳剤	アワノメイガ、アブラムシ類	2000～3000倍	収穫14日前まで	4回以内



写真① アワノメイガによる食害

因となるので、注意が必要です。